マイトップニュース

消費変化 感じ取りたい

以前は主流ではなかった「エコファー」に人々の意識の変化が感じられた。

動物に対する考え方が変わり、動物に関する法律も変化している。それに従い、流行のファーも、アクリルやポリエステルなどの化繊のものが多くなっている。リアルファー(毛皮)の方が質や肌触りが良く、高級感があるという考え方より、動物保護意識の方が高まっているのだ。

松本（まつもと） あゆみさん(若狭東高3年)

エコファーの技術をうまく利用すれば、毛皮を剥ぐために飼育されている動物を減らすことができる。科学技術の発展は、消費者の考え方や、新たな消費を形づくることに関与しているのだと思う。これからのさらなる変化を生活の中で敏感に感じ取りたい。

実際、さまざまなアパレルショップへ足を運べば「エコファー」という文字を見かける。見た目や質で劣るどころか、リアルよりも良い点が多く、需要の高さを感じる。

エコファーで着こなし

人工毛皮

服飾ブランドに続々登場

品質向上、動物保護を意識

この秋冬シーズンは、エコファーと呼ばれる人工毛皮を使うファッションブランドが増えている。リアルファー（毛皮）に比べて手入れが簡単で耐久性がある上、品質が格段に向上、動物保護の機運が高まっていることも背景にあるようだ。

イタリアのグッチは12月、「2018年の官夏コレクション」からリアルファーの使用を廃止します。毛皮を調べるという残酷な方法のために飼育され殺される動物と、わたしたちが着る動物をなるべく同じにしたい」と表明した。昨年はイタリアのブランドのアルマーニグループが「毛皮使用をやめる」と発明。ドイツのヒューゴ・ボスや米国のラルフローレンなども廃止している。

三陽商会（東京都新宿区）の婦人服ブランド「エポカ」ライラックのエコファーのディテールがお洒落。2色のマフラーをつなぎ合わせて

東京都新宿区の直営店舗内装

カストール銀座店

「ミディー丈のエコファーのマフラー、アクセントが付いてお洒落。2色のマフラーをつなぎ合わせて

東京都新宿区の直営店舗内装

カストール銀座店

ライラックのエコファーのディテールがお洒落。2色のマフラーをつなぎ合わせて

東京都新宿区の直営店舗内装

カストール銀座店

ソネのようなふわふわとした当の後藤優佳さんは「最近のエコファーは品質が高いです」と話す。

ウエスト部分とバッグにエコファーを施したエポカのコーディネート＝東京都千代田区のエポカ・ザ・ショップ丸の内

福井新聞

© 福井新聞社 無断複製・転載を禁じます